



Title	大阪市中心保健所梅垣所長を訪ねて：梅垣嘉子さん
Author(s)	古森, 俊輔
Citation	大阪公衆衛生. 1989, 55, p. 9-11
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83692
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

インタビュー記

大阪市中央保健所長

梅垣嘉子さん



病院から異質の世界へ

古森 今日はお忙しいところ、協会のために時間をとっていただきまして、ありがとうございます。まず先生の経歴からお話いただけますか。

梅垣 思い付いたことから言いますが、私の生まれは東京なんです。ちょうど終戦の時に小学校を出て、旧制の女学校に入りました。それから学制の改革があり、女学校の2年のときに新しい制度の高等学校になったわけです。

その翌年に新しい学校に変わりました。ですから、今の中学から高校の6年に、戦後の疎開やら含めたら、5つくらい学校を変わってましてね。最終は京都の高校を出ました。

今のように高校を出てすぐに医学部受験ができるという制度じゃなくて、2年間理科系のどこかの学部において、そして新たに医学部の試験をうけて入るというときでした。私の場合は、2年間当時は西京大学といっていました、今の京都府立大学の農学部、医学部は

奈良県立医大です。昭和33年に卒業しまして、もう卒後30年になります。

初めは小児科医になりたいと思い、京都の第一日赤病院に勤務しました。小児科ですと、週に2回くらい当直なんかあるわけですね。しかし、結婚して大阪に来てからは、このまま京都の病院に勤めるのは、ちょっと無理やろなということで、京都の第一日赤のほうを退職しました。

しばらくゆっくりしてようかというときに、まあ今でもそうですけど、当時は保健所の医師が少なくて、市大の公衆衛生教室の知っているかたから、「遊んでいるんだったら、しばらく乳幼児の健診だけでも手伝いにきてくれないか」、そんなきっかけで生野保健所に行きはじめてのが、運のつきです。

当初は臨床に未練がありましたし、少したったら病院に戻ろうかなと思ってました。役所の中というのは、病院と違って、いろいろな意味で私にとっては異質の世界でしたからね。今だったら抜け出しても、ちょっと溝があるくらいだから、飛び越えられる、元に戻れると思ってました。2年、3年、そして5年という時間が過ぎていくなかで、いつも早く早く出ようと思ってました。しかし、その度にうまく説得されて。

臨床のほうから少し離れてしまうと、一から勉強しなোসというの無理であろうと、諦めができたのもあるかもしれません。そうになると、「いるんだったら係長になったらどうか」、周囲の人がうまくお膳立てしてくれて、結局、保健所に骨を埋めるような格好になりました。

生野保健所、南保健所、西成保健所を経験して、保健所長になりましたのは、昭和53年、大淀保健所が初めてだったんです。そこで3年、そして阿倍野保健所で5年、それから南保健所に行きまして、2年10ヶ月ですかね。そして、この2月13日に南区と東区がいっしょになりまして、中央保健所になり、ここ

の初代の所長を務めることにあいたったというのがいきさつであります。

大阪市中央保健所とは

古森 2月より東区と南区が中央区となり、また保健所も中央保健所となりましたが、管内の特性を教えてください。

梅垣 南は難波の高島屋から、北東はツインビルのあるビジネスパークまで、面積は約9km²です。

堺筋から西は、船場の問屋街、わが国有数の金融機関・総合商社などのビジネス街になっています。

東北部の大阪城周辺は、行政機関の集まる官庁街や公園、超高層ビル街になっています。

東南部は、古くからの住宅街や、中高層住宅団地もあり、黒門市場、空堀商店街など、庶民性あふれる町です。

南部は、ミナミの繁華街、心斎橋、ここは皆さんのほうがよく知っているでしょう。

人口は62,300人くらいですが、昼間人口が50万人以上となり、昼夜間人口比率は8倍を超えるのが、中央区の特徴ですね。

古森 保健所の抱えている問題、課題はどんなものがありますか。

梅垣 まず、対人保健サービスからいいますと、昼間人口のおおきな比重をしめる青壮年、このかたたちの健康管理は、それぞれの企業がしっかりやっていますから、それほど問題にはなりません。

しかし、子どもの問題、特に精神発達上の問題はおおきいですね。これは、調査を行い公衆衛生学会にも報告していますが、おとなのなかでしか生活していないことに原因があるのかもしれません。

また、昔から住んでいる老夫婦、ひとり暮らしの老人なども考えなくてはいけない問題です。

難波あたりは、わりとアルコール中毒者が

多いですし、警察官通報されるケースもあります。

そして、地域の特性上、飲食店の管理も大変重要だといえます。特に、新しく建つところについての計画段階からの管理指導には気をつかっています。

でも、飲食店の数は1万5～6千、特に南の繁華街は雑居ビルのなかに小さなものがたくさん入ってます。食品衛生の監視はたいへんです。新しい申請と更新、同時に廃業届けもあるわけです。残念ながら、無許可のものもないとはいいきれないですね。食品・環境の監視員は、課長を含めて15人いるんです。それでもそこまで監視の眼をいきとどけさせる人数には足りません。そういったことから、各組合を通じて啓発的なことをしていかなければならない。

情報コーナーも

古森 今日、はじめてこの中央区総合庁舎によせてもらったんですが、立派な建物ですね。地下鉄の駅からも近いし。

梅垣 大阪市は大阪府の中心、そして中央区は文字どおり大阪市のまんなか、この総合庁舎は中央区のまんなかにあります。もとの東南両区の住民にとって利用しやすいところがあります。

中央区総合庁舎は7階建てですが、保健所は地下1階から2階の部分にあります。地下1階は駐車場と犬舎、事務所・診療室・相談室等が1階、2階には検査室・栄養指導室・保健指導室・レントゲン室集団検診室等があります。

古森 入口から入ったところに、ビデオの様なものがありました。

梅垣 あれはAVガイドシステムです。新しい保健所の特徴のひとつなんですが、保健衛生知識の啓発とフレッシュな情報を提供できるような目的で、設置されているコーナーで

す。住民のかたが、自分で好きなビデオを見ることが出来ます。もちろん、画面をコピーし持って帰ることも出来ます。

古森 総合庁舎ということで、区役所といっしょにある点で住民への反響はどうでしょうか。

梅垣 総合庁舎になっているのはここだけではなく、大阪市内にいくつかあるんですよ。

そうですね、住民にとって便利なのは、いろいろな申請をするとき、たとえば、住民票などが必要なときがあります。そういう時ですね。

それから、いま大阪府では保健と福祉の連携ということが、盛んにいわれてますね。ここでは区役所の福祉関係の課・係と距離的にも近いし、気やすく情報交換なんかができますね。もちろん福祉だけではありませんが。そのようなことが、メリットでしょうか。

合同庁舎で困るのは、冷暖房です。以前いた保健所では、全館ひとつで空調をやっていて、区役所が管理してるんです。10月末とか11月でも寒い日がありますね。そんなとき健診のある日は暖房がいるでしょう。日曜日に健診をやろうとしても冷暖房が入らない。

ですから、この新しい合同庁舎を建てるときには、「空調関係に関しては、区役所と別にしてくれ」と強く要望しました。そういう意味からこの庁舎についていえば、あまりデメリットはないといえます。欲をいえば、区役所の一部に保健所があるという印象をもたれるのがしゃくにさわれますね。

合区への苦勞

古森 先生は中央保健所の初代所長になられたわけですが、2つの保健所を統合したときのご苦勞はいかがだったのでしょうか。

地域住民は合区に絶対反対だというニュースを、以前見たことがあります。

梅垣 大阪市制がしかれて、今年で100年目

です。しかし、東区南区とも区制ができたのは110年まえなんです。市制より10年古い。それくらい伝統があるところですから、住民としては合区は絶対反対だ。しかも1つになればどちらかの名前を使うか、あるいはまったく新しい名前を使うかということになると、反対意見は出てきて当然でしょう。

合区の話は2年前ですかね。合区になることによって行政サービスが低下する。保健所も大阪市の1機関ということで、保健所に関わりのある医師会、歯科医師会、薬剤師会といった団体に理解を求めるために汗をかきました。

しかし、私が南保健所にきたときには、もうすでに合区にならざるを得ないという状況にあったので、それほどの苦勞はありませんでした。

中央区では、今、地域の人たちに利用していただけるような施設が整備されようとしています。そのひとつとして、この秋、道人小学校の跡地に『大阪市おとしより健康センター』ができます。これは大阪市の老人保健施設として第1号の施設です。ぜひ、出版編集室で紹介していただいて、会員のみなさんに知ってもらいたいですね。

古森 わかりました。この件については、帰って編集室で検討してみます。

今日は、長い時間公務を割いていただきましてありがとうございました。

インタビューー 古森俊輔
(大阪府狭山保健所 医師)